

お客様本位の業務運営に関する取組状況

2026年6月26日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

当社は、2017年11月に制定した「お客様本位の業務運営に関する取組方針」等に基づき、お客様本位の業務運営に向けた取組みを推進しています。

2025年度および直近の取組みについて、次のとおりご報告させていただきます。

1. お客様の最善の利益の追求

- ・2025年度は、「資産運用サービスを通じて、豊かな未来と社会の繁栄に貢献します。」との新たな経営理念をスタートさせ、「選ばれる、勧められる、「しんきん感」のある運用会社」を目指し、お客様の真のニーズに応えるより良い商品提供に向けて取り組むとともに、お客様の投資判断に役立つ情報提供を強化しました。
- ・お客様本位の業務運営をより一層推進するため、「プロダクトガバナンスに関する方針」を制定しました。
- ・投資先企業との建設的な「目的を持った対話」など、エンゲージメント活動を積極的に行い、一部投資先には、ESGに関する取組みに係る意見交換も行いました。また、適切な議決権行使を通じた投資先企業の価値向上にも努めており、議決権行使の結果は、当社ホームページにおいて3か月ごとに個別開示しています。

<企業対話数>

2023年度	2024年度	2025年度
76社 96回	94社 127回	71社 90回

- ・運用手法等に関する調査・研究を継続的に実施しており、運用ノウハウの改善および向上に資するため、運用対象・手法に関する情報収集に努めるとともに、当該情報を運用会議において報告するなど、運用部門内で常に共有される体制となっています。
- ・商品品質の維持・向上のため、運用部門から独立したリスク管理部門である経営管理部が、日次・月次で運用内容をモニタリングしており、モニタリング結果は、コンプライアンス・運用管理委員会に毎月報告しています。また、パフォーマンス評価については、投資政策委員会に毎月報告しています。

※コンプライアンス・運用管理委員会

当社のコンプライアンス、信託財産の運用リスクおよび事務リスクの管理に関する重要事項の決定機関

※投資政策委員会

当社の運用業務に係る基本的な事項である運用方針、運用戦略および商品開発に関する重要事項の決定機関

- ・お客様にとって最良の条件で取引を執行するため、ブローカーの選定および評価によって設定した発注・引合目標値に基づいた管理を行っています。
- ・「責任ある機関投資家」の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》への取組方針を定め、年1回スチュワードシップ活動の自己評価を行い、ホームページに公開しています。
- ・適切な議決権行使のため、より積極的な株主還元を促すように投資先の還元性向基準を変更するなど、議決権行使に係る判断基準の見直しを実施しています。
- ・PRIへ年次レポートを提出し、受領したアセスメント・レポート内容を投資政策委員会に報告するとともに、内容を踏まえた改善を行うなど、責任投資の推進に努めています。

2. 利益相反の適切な管理

- ・お客様と当社等の利益相反を適切に管理するため、利益相反のおそれのある取引の類型および当該取引を特定するプロセス等を規定した「利益相反管理規程」を制定し、その概要を「利益相反管理方針」としてホームページに公表のうえ、当該方針に沿って適切に管理しています。また、利益相反管理に係る知識水準を維持、向上させるため、全役職員に対し研修を実施しています。

3. 手数料等の明確化

- ・交付目論見書において、お客様が直接および間接的に負担する費用を開示するとともに、請求目論見書にも手数料等および税金を明確に記載し、各々の目論見書を当社ホームページに掲載しています。また、販売用資料においても、交付目論見書と同様に費用等を記載し、運用報告書には、経費率に係る表および円グラフを記載するなど、経費率の開示を実施しています。

4. 重要な情報の分かりやすい提供

- ・商品の複雑性や情報の重要性等を踏まえ、重要な情報については表示方法を強調し、必要に応じて内容に関する図表を使用するなど、お客様にとって分かりやすい資料による情報提供を行っています。
- ・お客様が同種の商品との比較を容易に行えるよう、組成した商品に係るリスク・リターン、想定する顧客属性の情報等を販売会社へ提供するなど、販売会社を通じたお客

様への情報提供に努めています。

- ・国内外市場の動向や政治・経済情勢のタイムリーな情報等をお客様にお届けするため、「投資環境」（当社ストラテジストが執筆するマーケット動向や投資戦略等についてのレポート）を発信しています。

また、市況・マーケットの情報は、当社ホームページに動画でも掲載しています。

＜レポート発信回数＞

	2023年度	2024年度	2025年度
投資環境	41回	89回	90回

※上表の2023年度および2024年度の発信回数は、現在は廃刊した「トビックス」の発信回数を含めています。

5. お客様に最適な商品・サービスの提供

- ・販売会社への訪問およびオンラインミーティング等を通じて、お客様の運用ニーズの把握に努めています。

- ・商品の組成に当たっては、商品特性を踏まえ販売対象として想定する顧客属性を特定し、当該顧客属性に係る情報提供を販売会社に行うなど、お客様に対し適切な販売が行われるよう販売会社をサポートしています。

- ・商品ラインアップ拡充のため、「しんきん円建て債券ファンド 2025-12（限定追加型）」を設定しました。

- ・提供する商品のライフサイクル全体のプロダクトガバナンスおよび商品の組成・提供・管理の各プロセスにおける品質管理の実効性確保のため、プロダクトガバナンスに関する企画、立案、管理および報告等を行うプロダクトガバナンス・ワーキンググループを設置しています。この組織体の目的や任務をより明確するため「プロダクトガバナンス・ワーキンググループ運営要領」を整備しました。

同ワーキンググループで審議した内容は、投資政策委員会に毎月報告しており、お客様がより良い金融商品を選択できるよう、運用体制やプロダクトガバナンス体制等をホームページに掲載しています。また、製販全体としてお客様の最善の利益を実現するため、販売会社との情報連携の強化に取り組んでいます。

- ・お客様の金融取引に関する知識向上や投資判断に役立つ情報を提供するため、お客様を対象にした資産運用セミナーに講師を派遣するとともに、販売会社の投信窓販担当者を対象とした勉強会への資料提供および講師派遣を行っています。また、当社ホームページに商品概要動画を掲載するなど、お客様への情報提供の強化に努めています。

<講師派遣回数>

	2023年度	2024年度	2025年度
お客様向け資産運用セミナー	83回	76回	60回
投信窓販担当者向け勉強会	397回	282回	326回

6. お客様本位の業務運営を徹底するための枠組みの整備

- ・お客様本位の業務運営に係るモニタリング体制の強化等のため、お客様本位の業務運営に関する取組状況を経営委員会に報告する体制としています。

※経営委員会

当社の経営に関する重要事項の決定機関

- ・「お客様本位の業務運営に関する取組方針」および「お客様本位の業務運営に関するアクションプラン」について、全役職員に対し研修を実施するなど、お客様本位の業務運営の徹底を図っています。

(注) 当社は、投資信託等の商品を組成し、お客様からお預かりした資金の運用を行う運用会社です。お客様へ直接の商品販売は行っておりませんが、当社の商品を販売する販売会社に向けて情報提供等を行い、お客様の最善の利益の追求に努めています。